もっと来館者に愛される博物館へ

岩宿博物館に求められる新しい役割（「基本計画」より）

役割①　「旧石器時代を学ぶセンターミュージアム」

役割②　「相澤忠洋氏の業績の顕彰とその情熱の継承」

リニューアルに向けて設計で重視する視点

楽しくて
また来たくなる
博物館

狙い

リピーターの獲得

市民の
誇りとなる
博物館

狙い

相澤忠洋氏の顕彰

誰にでも
利用しやすい
博物館

狙い

周辺散策や観光情報
の提供

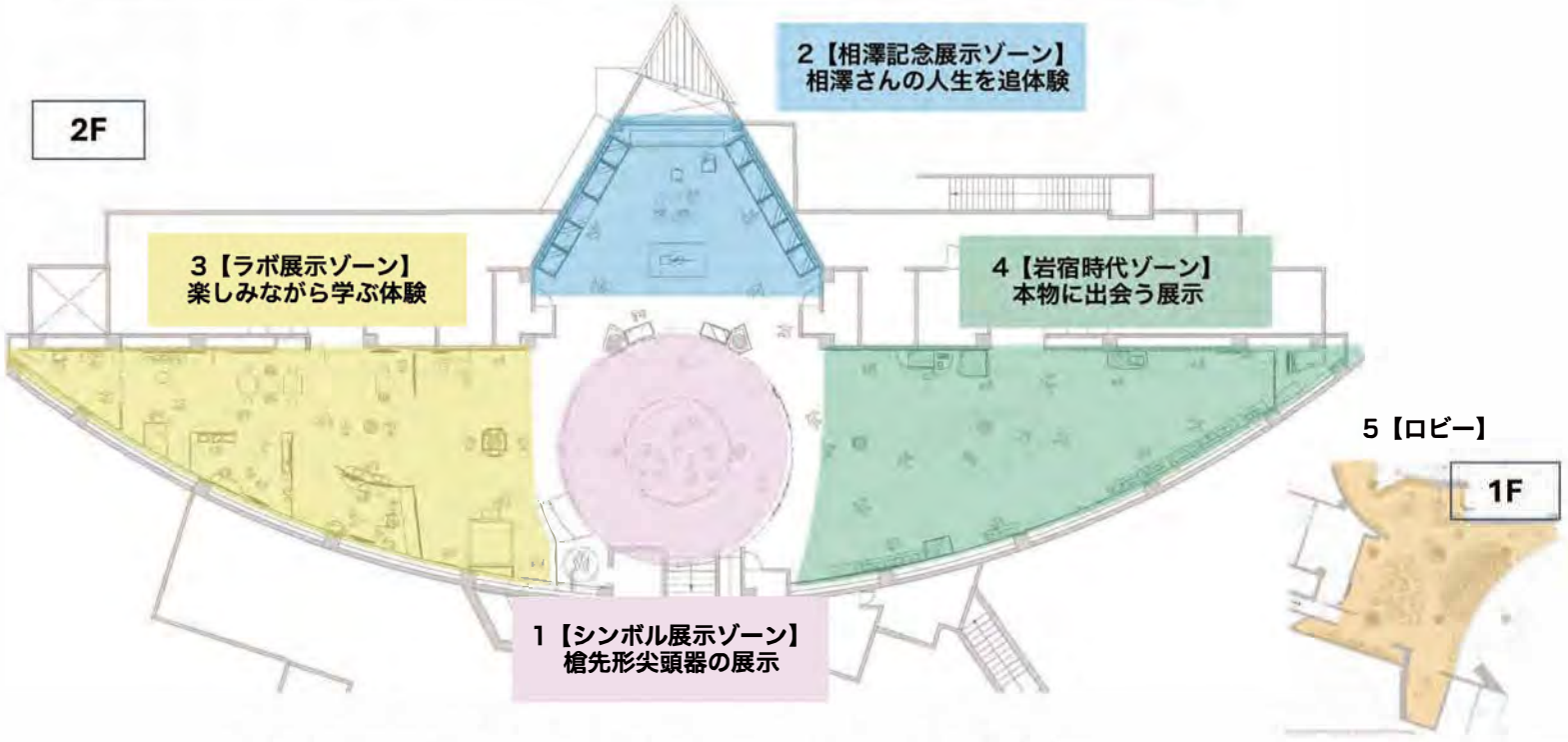
これからの岩宿博物館は・・・

だれもが楽しめる

「体験性」

を重視した展示空間へ生まれ変わります。

知識を得ることに重きを置いた受動的な展示ではなく、
自ら手を動かし、考え、発信する、生き生きとした能動的な展示へ



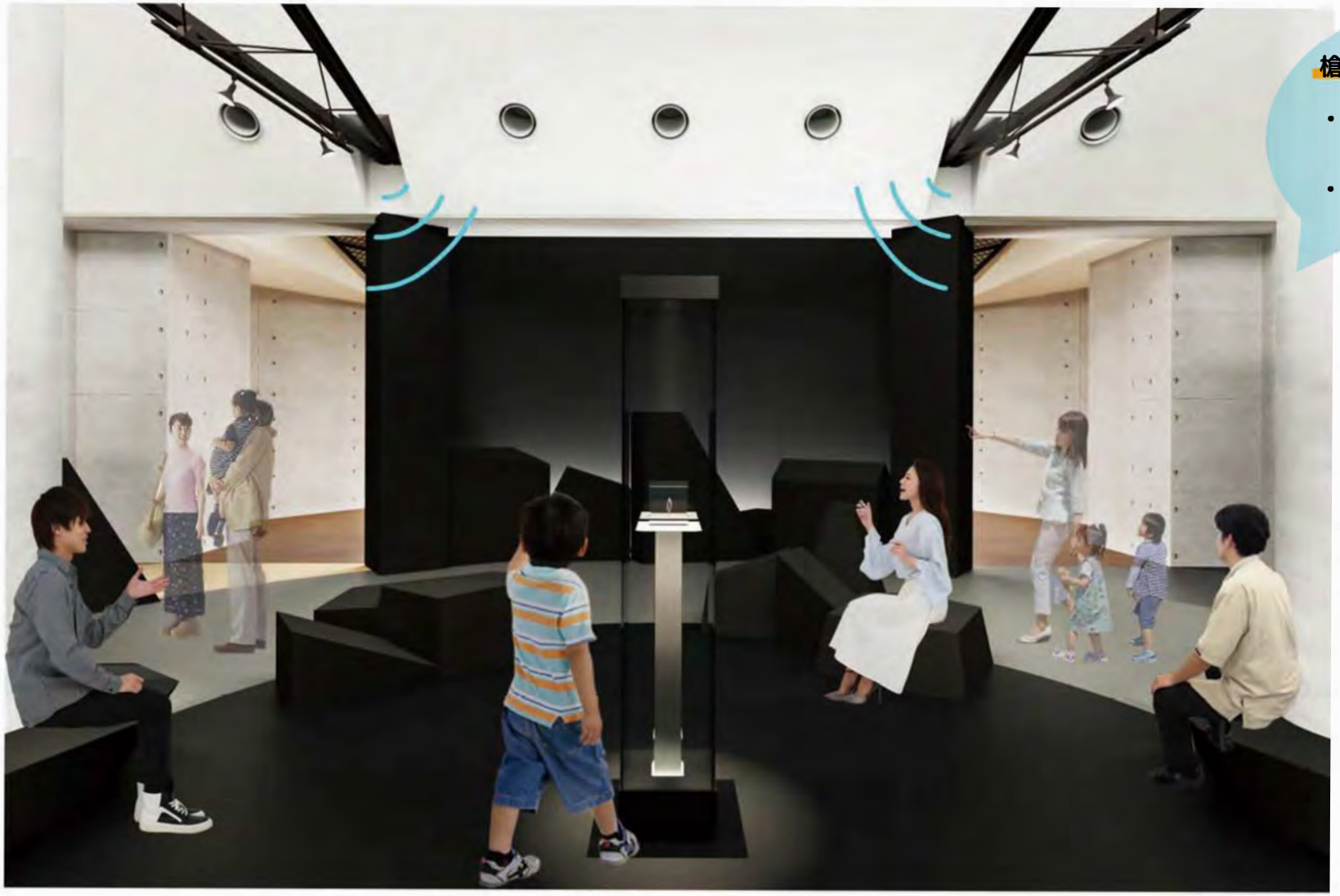
2階展示室は4つのゾーンで構成しています

1． シンボル展示ゾーン

本物に出会う
体験

槍先形尖頭器との出会いの場

この１つの石器の発見から、『日本最古』への歴史研究の扉が開いた！



槍先形尖頭器のここがすごい！

- 相澤さんが発見！
  岩宿時代発見のきっかけ！
- 教科書にも掲載！
  日本で一番有名な石器！

音で感じる岩宿時代！

臨場感ある演出が豊かな
イマジネーションをかきたてる！

（音源例）

- 石器が割れる音
- 獣が走る音
- 風が吹く音
- 焚火が弾ける音

2.相澤記念展示ゾーン

相澤さんの人生を
追体験

昭和の相澤さんの研究室にタイムトリップ。

相澤さんの貴重な資料から考古学にかけた人生の醍醐味を感じる。

◆ドキュメンタリードラマで追体験する、相澤さんの生き方の深み

ドキュメンタリー
相澤さんの姿と肉声、
実写映像を用いた
リアリティのある表現

×

ドラマ
共感・感動を生む
ドラマ的な演出

◆その他の映像（スライドショー）
- 相澤さんの遺跡調査風景
- 相澤忠洋資料の紹介
- 映画のダイジェスト版　など

3.ラボ展示ゾーン

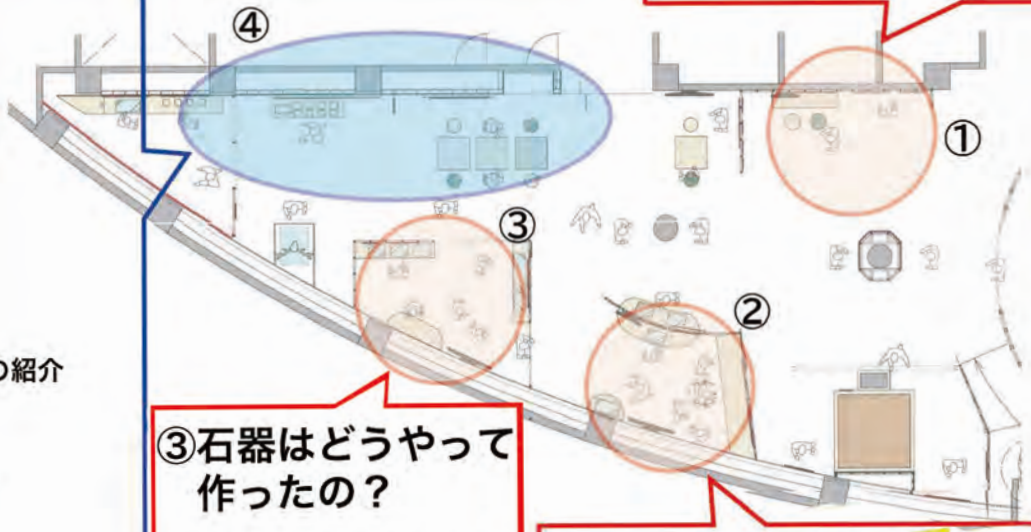
「自分でやってみる」ことが大切

岩宿ラボでは、石器や骨に見て触れて、
研究者の先生に直接はなしを聞いたり、自分の考えを
アウトプットしたりしながら、能動的に学びを深めます。

自分で見てみる！ ①これはいつの時代のもの？

～顕微鏡で3万年前の火山灰を観察～

キラキラ光る火山灰が
見えるぞ！
岩宿ドームの地層にも
同じ火山灰があるんだ！



④フリーゾーン

ワークショップや
各種体験メニューの実施

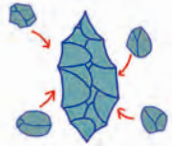
（体験メニュー）

- 石器作り実演
- 毛皮の服を着る
- 動物の骨を触る
- 石器の材料を触る
- 石壮里博物館等連携機関の紹介

隣のふれあい学習館で 石器作り体験とも連動！

③石器はどうやって作ったの？

- 石器の作り方を知る
- 色々な石器を触る
- 石器作りの道具を触る
- 作り方を復元！
  石器パズル



同じ石から作られた
石器はくっつくんだ！

研究者に直接聞く！

②石器は何に使った？

～スーパー顕微鏡で
石器を見てみよう～

石器を拡大して見ると、
たくさんのキズや光沢が
見えるよ！
このキズから、何に使われた
石器かが分かるんだ！

4.岩宿時代ゾーン

本物に出会う
体験

岩宿遺跡からはじまった研究の息吹が全国に拡大！
岩宿遺跡が切り拓いた研究がこの地に集約。
ここに来れば、岩宿時代の全てがわかる！

●ナビレンスの導入

・展示パネルにコードを設置
・36言語への自動翻訳機能
・視覚障がいをお持ちの方も
アクセス可能

（コード見本）

5.1Fロビー

ビジターセンター機能を盛り込んだ1Fロビー

1Fは、子どもたちが楽しく岩宿時代と出会える場所。
2Fの展示の一部を体験したり、周辺の岩宿遺跡や岩宿ドームへ誘導、
無料を生かして地域のコミニティ広場へ。

博物館周辺には
こんな施設もあるよ！
行ってみてね～

博物館ガイダンス・みどり市見どころ紹介

2Fも面白い展示が
いっぱいありそう！
早く見たいな～！

隣のふれあい学習館で
石器づくり体験も
できるんだ！

⑥ 1Fと2Fをつなぐ誘導足跡演出

⑤ ミュージアムグッズやみどり市特産品！

ミュージアムグッズ

④ 石器に触れるハンズオン展示！

石器ってなんだろう？
いろんな種類が
あるんだな～

② ミニライブラリー

公園の散歩途中に
博物館へ
ちょっとひと休み。

① 相澤忠洋さんがお出迎え

リニューアルによって期待される
新たな波及効果の実現を目指します！

ラボ展示ゾーン 岩宿時代ゾーン	相澤記念展示ゾーン シンボル展示ゾーン	１階ロビー
岩宿の魅力発信	相澤さんの魅力発信	みどり市の魅力発信

波及効果① 楽しくてまた来たくなる 博物館 入館者の増加！	波及効果② 市民の誇りとなる 博物館 相澤忠洋氏の顕彰！	波及効果③ 誰にでも利用しやすい 博物館 市内観光客の増加！

もっと来館者に愛される博物館へ